令和５年度　浅草小学校授業改善推進プラン

第４学年

1　浅草小探究モデルにおける児童の実態

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	自ら課題をもって取り組める児童が多くいる反面、初めて出合う問題に対して、「分からない」、「難しそう」と粘り強く問題に取り組めない児童がいる。
	B 学習計画を立てる	全体で話し合う中で、友達の計画を参考に自分なりの計画を立てることができる児童が多い。しかし、話を最後まで聞かずに、学習内容を理解できなかったり、見通しをもって取り組んだりすることが困難な児童もいる。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	結論をもつことはできるが、他者意識をもって根拠や理由を明確に表現できない児童が多い。自分の考えを話すことはできるが書くことは苦手とする児童、逆に書くことはできるが話すことは苦手な児童もいる。
	B 他者の考えを知り関連付ける	多くの児童は、友達の考えに興味をもち対話に意欲的に取り組んでいる。しかし、話合いの目的がずれてしまう児童や、自分の思いを伝えるだけで終わってしまう児童など、お互いの考えを活かすところまで至っていない。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	学習のめあてに対して自分の考えをもつことができる児童が増えているが、教科によってめあてからずれたり、具体的にまとめたりできない児童が多い。
	B 活かす	新たな疑問をもつことはできるが、学習のつながりを考えながら取り組める児童は少ない。

2　目指す児童の姿

①学びに取り組む姿	②対話の姿	③探究する姿
自ら課題をもち、ねばり強く学習に取り組む。	自分と友達の考えを比べながら、互いのよさを認め自分の考えを深める。	自己の学びを振り返り、自己の成長や新たな課題に気付く。

3　授業改善に向けての具体的な方策

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	児童が学習に対して関心がもてるようにするために、児童間で考えの違いが生まれる教材を提示したり、提示の仕方を工夫したりすることで、児童が問いをもてるようにする。また、児童の実態の把握に努め、児童の日常と結び付けたり、児童の力に相応する教材を設定したりする。
	B 学習計画を立てる	児童の疑問から課題作りを行い、全体で共有できるようにする。その上で、解決に必要な「知りたいこと」「調べたいこと」を考える時間を、十分に確保する。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	考えをもつことが苦手な児童には、選択肢の中から選び、選択の理由を考えるところから始める。そして、ワークシートや思考ツールを工夫し、自分の考えをもてるようにする。短い時間で物事を説明したり、考えを書きまとめたりする練習を行う。
	B 他者の考えを知り関連付ける	話合いの視点を明確にするために、相違点に着目させる。思考ツールを活用し、友達の考えからつなげて発言したり、比べたり、組み合わせて新たな考えを作ったりすることを価値付けていく。学級会を計画的に行っていく。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	工夫してまとめていたり、再考により考えが変わったり、深まったりした児童のノートを全体に紹介する。
	B 活かす	児童のノートの記述を基にめあてを設定する機会を多くもち、自分たちで学習を作っているという意識を高める。